## 論 文 内 容 の 要 旨

専攻名	多文化社会学 専攻	氏 名	鄭祝昂
題名	日中文化交流に関する考察 -中国合肥市・久留米市友好都市提携を事例として-		

本論文の目的は、中国合肥・久留米市の友好都市提携についての事例と交流関連の記録を中心に考察し、日中地方都市交流の特徴と問題点を明らかにする。地方外交と中央政府の外交の役割の差異から、国際的行為体としての地方都市の国際文化関係における役割を明らかにする。これらの考察結果から、日中間における地方と中央政府の制度の差、国際的行為体としての地方都市の性格を考察することにより、国家関係を超えた文化交流の意義と今後的課題を明らかにする。そこで、本論文は、①合肥市と久留米市の国際文化交流は、制度的な非対称性をもとに国家要因に影響されてきたが、民際交流が発展しないのはなぜか。②合肥市と久留米市の間の中央・地方関係の制度的な差は国際文化交流にどのような影響を与えているのか。という二つのリサーチクェスチョンを設定した。

論文の構成と要旨は以下の通りである。

第 1 章では、日中友好都市の現状と変遷、提携契機、両国友好都市交流を行う主要組織、そして戦後両国間の国際文化交流史を整理する。これにより、日中の友好都市交流は、中国の国家外交と日本の地方行政の間の交流であることを明らかにした。中国、日本の場合も末端に交流を目的とする団体が組織されてはいるが、中国の方は、市民、民間が主体的に独自に活動を展開している民際交流ではなく、中央政府・地方行政と連動した国際文化交流の性格を帯びていることを指摘した。

第2章では、久留米市と合肥市の友好都市提携の特徴を、締結から 2021 年までの半世紀に及ぶ交流の実績を基に、日中関係が友好から構造変動そして対抗関係へと向かうなか、交流の量的、質的な変化について考察する。考察により、以下の 4 点を明らかにした。第一に、久留米市と合肥市の友好締結の契機を明らかになった。第二に、2021 年 11 月に継続した両市の友好交流の原因は、両市政府同士交流の専用ツールが有り、かつ信頼関係が築けていることが重要であると指摘した。第三に、久留米市と合肥市の交流の頻度は、日中関係に強く関連している。2010 年以降、「文化交流」を中心とする両市交流は、2020 年からのオンライン交流に基礎を定めた。第四に、文化を中心とする両市の友好交流は、2010年以降の日中関係悪化と両市の経済発展状況の逆転に緊密に関連していることがわかった。

第3章では、久留米市と合肥市の都市友好交流の運営体制と交流内容について考察した。「日

中友好」を目的として設置された久留米市日中友好協会は、両市の友好交流に重要な位置を占めている。地域国際交流協会としての久留米観光コンベンション国際交流協会の国際交流推進政策は、久留米市の国際戦略と緊密に関わる。両協会も、両市友好都市交流に対し不可欠な組織である。一方、合肥市は市民交流を目的にした組織がないことを指摘した。そして、両市は2021年現在、少子化問題に直面している。2020年と2021年両市各自の地域振興戦略・国際人材誘致戦略を策定しており、市民主体の交流の可能性は少ないが、少子化などの共通の問題を、実務的交流を展開する可能性があることを提示した。

第 4 章では、合肥市市民を対象とした久留米市との「友好都市協定」の意識を調査したアンケートの結果を考察した。考察により、久留米市・合肥市友好都市交流の年表とアンケート調査結果では、合肥市は市民が主体のいわゆる民際交流への展開を欠き、地方自治体・地方政府間の交流にとどまっていることが明らかになった。

以上のように、本論文においては、戦後日中の間の国際文化交流と日中友好都市交流から、久留米市と合肥市の友好都市締結を実例に、日中関係と都市交流の課題を考察した。その結果、中国と日本の間の友好都市交流は制度上、非対称の構造の上に成り立っていることを指摘した。日本の国際友好都市交流は、国際親善の増進、地域の振興と活性化、国際社会の平和への貢献など相互理解を目的にしていることが明らかになった。しかし、中国の国際友好都市交流の主体は国家の指導の下に置かれた地方政府であり、あくまでも国家総体外交の一部であることがわかった。本論文で考察した合肥・久留米市の半世紀の交流の歩みが、国家間の秩序と文化交流の相補的な関係の所在を示している。日中関係が変化し、日本と中国の経済的位置が逆転しても、都市間の文化交流は継続したことを指摘した。絶えずに変動する日中関係の安定化を図るためにも、文化交流の持続的発展と、文化交流に留まらない新しい協力関係の展開が求められることが今後の課題である。

## **Abstract**

The purpose of this paper is to clarify the characteristics and future challenges of Japan-China urban city interactions, using Hefei (China)-Kurume (Japan) International Friend City as a case study. How the difference of Power between local and central government in Japan and China influence the local cities enrolls in the international character will be revealed in this paper. The different central-local power dispatchment between two countries shall influence the local cities' movement, and we will clarify the significance and future challenges of cultural interactions beyond state relations.

The abstract of the paper are as follows.

In Chapter 1, the current situation and changes of Japan-China international friendship cities, the reasons for their affiliation, the main organizations involved in the interactions of international friendship cities between the two countries, and the history of international cultural interaction between the two countries after the WWII are summarized.

Chapter 2 focused on the characteristics of the friendship city between Kurume and Hefei, based on the half-century of communication between the two cities from the signing of the agreement to 2021, and examines the quantitative and qualitative changes in communication as Japan-China relations moves from coordination to becoming rivalry in East Asia.

In Chapter 3, the management system, and the contents of international friendship interactions between Kurume City and Hefei City are discussed. The Kurume City Japan-China Friendship Association, which was established for the designated purpose of "Japan-China friendship", plays an important role in connecting the two cities. Also, as a regional international communication association, the Kurume Tourism and Convention International Association draws its international strategy correlated the City's international layout. On the other hand, we pointed out that there were no organization for international exchange that allows citizen to participated in by their own free will in Hefei City.

In Chapter 4, the results of a questionnaire surveying the citizens of Hefei on their awareness of the "Friendship City Agreement" with Kurume are discussed. The result shows that the exchanges are limited to two local and regional governments, with lacking the participant of citizens.

As mentioned above, this paper examined the connections of Japan-China relations and international culture exchanges, and the ties of International Friend City between two countries. Taking the Kurume City and Hefei City as an example. The half-century of exchange between the two cities, examined in

this paper, shows where the complementary relationship between national relation and cultural exchange lies. The paper points out that cultural exchange between the cities continued even as China-Japan relations changed, although the economic positions of Japan and China were reversed. To stabilizing the ever-changing China-Japan relations, the future challenge is to ensure a sustainable development for cultural exchange and beyond, also, the cooperative relationships in other areas are required in the nearest future.